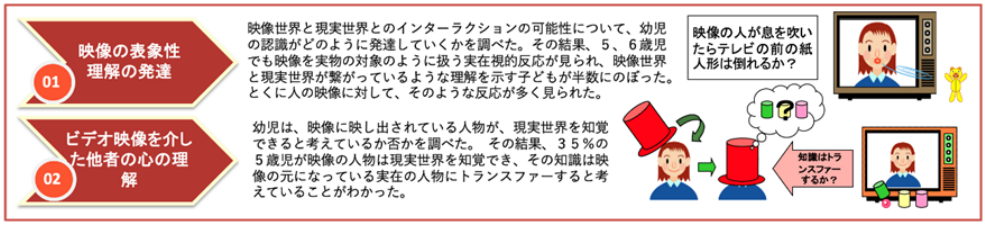
シーズ技術名

幼児期の子どもは、映像メディアをどのように理解しているか？

技術分野分類	社会科学 心理学　4102　教育心理学
技術キーワード	幼児教育・保育、認知・記憶・教育、発達
産 業 分 類	O－８２：その他の教育、学習支援業

内容	概　要	21 世紀に入り、様々な映像メディアが生み出され、進化を続けています。映像の質の向上はもちろんのこと、VR などの新たな技術が開発され、私たちはあたかも映像の中に入り込んでいるような体験をすることが可能になりました。また、スマートフォンをはじめとするタブレット端末の登場によって、あらゆる映像や情報を手軽に持ち歩くことができるようになりました。私たちはどこにいても、現実世界にヴァーチャルな世界を持ち込むことができるようになったのです。例えば、現実世界にポケモンを映し出すポケモン GO は大きな話題となりました。ヴァーチャルとリアルの境界線は、今後ますます曖昧になっていくと予想されます。 一方、子どもたちの世界では何が起きているでしょうか。子どもたちも非常に幼い頃から、実に様々な映像にさらされています。最近、私が非常に感心したものに、アプリを使って楽しむ恐竜図鑑があります。そのアプリはタブレット端末の中に、現実世界と恐竜の 3D 動画を同時に映し出すことができます。まるで自分の部屋に恐竜がいるかのように感じられます。 では、子どもたちはこのような映像をどのように理解しているのでしょうか。大人はどのような映像であれ、それが単なる映像と認識しながら楽しんでいます。しかし子どもはそうではありません。私たちの初期の研究では、子どもが写真や動画映像を実物と完全に異なるものとして認識するようになるには、これまで考えられていたよりずっと時間がかかることを、実験によって明らかにしました（木村・加藤 2006 など。図 01,02 参照）。さらに、上記のようにより進化した映像メディアが子どもたちの生活に浸透すれば、子どもの認識の発達は、かつてとは違う様相を見せるようになると考えられます。このことが、子どもにとって有益なのか否かは、検討すべき喫緊の重要課題となるでしょう。以上を踏まえて、今後は新しく開発された様々な映像メディアを使用して、子どもの映像理解の発達について、さらに研究を進めていきたいと考えています。
	従来技術・競合技術との比較（優位性）	
	本技術の有用性	
関連情報（図・表・写真等）		
適用可能製品		
技術シーズ保有者	氏名 所属・役職	木村　美奈子　准教授 名城大学　教職センター
技術シーズ照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	名城大学　学術研究支援センター TEL 052-838-2036　FAX 052-833-7200 sangaku@ccml.meijo-u.ac.jp

■知 的 財 産

■試作品状況　無　　提示可　　提供可

作成日 2023 年　2 月　10 日